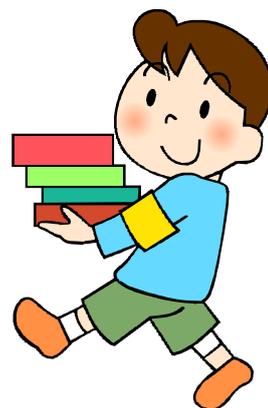
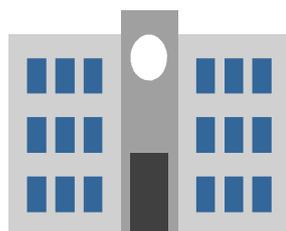


「中学校キャリア教育」実践の手引き



岩手県立総合教育センター

はじめに

今日、離職率の高さやフリーター、ニートの問題に見られるように、若者の勤労観・職業観の未熟さや職業人としての基礎的資質・能力の低下等の問題が懸念されています。また、将来の夢をもてず、学ぶ目的や意欲を欠いた子どもたちの増加も指摘されています。このような進路にかかわる諸問題を背景に、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が求められています。

しかしながら小・中学校における現状は、キャリア教育のとらえや指導の在り方に戸惑いや認識のずれが見られるなど、その理解は十分とは言い難く、キャリア教育推進の基盤となる全体計画等のカリキュラム整備も進展していないため、教育課程のどこで、どのような指導を行うかといった指導内容や指導方法が明確になっていないこと、職場体験等の活動が指導の計画性や系統性を欠いた一過性の活動にとどまっていること等の実践上の課題も多く指摘されています。

このような状況を改善し、組織的・系統的なキャリア教育を推進するためには、キャリア教育についての確かな理解に基づいた具体的な指導計画を整備する必要があります。

そこで、各校のキャリア教育指導計画作成を支援する資料として、キャリア教育の実践上のポイントや指導の方向性とそれに基づいた具体的な実践事例や指導計画等を『「中学校キャリア教育」実践の手引き』として本冊子にまとめました。

本冊子が、先生方のキャリア教育実践のための参考資料としてご活用いただければ幸いです。

目 次

キャリア教育について理解しましょう

Q 1	キャリア教育とはどのような教育ですか？	1
Q 2	キャリア教育はどのようにして必要なのですか？	3
Q 3	キャリア教育ではどのような力を育成すればよいのですか？	5
Q 4	進路指導とキャリア教育はどう違うのですか？	7
Q 5	キャリア教育を進める上で、どのような点に注意すればよいのですか？	9
Q 6	小学校と中学校の連携はどのように図ればよいのですか？	11

キャリア教育を実践しましょう

1	キャリア教育推進の手順	14
2	キャリア教育全体計画の作成手順	16
3	キャリア教育全体構想表の作成手順	18
4	キャリア教育の視点を取り入れた学習指導案の作成	20
5	キャリア教育の評価	22

キャリア教育に関する参考資料

	新潟県上越市立城北中学校「教育計画2008」より	25
	岩手県八幡平市教育委員会資料より	29

キャリア教育について理解しましょう

Q 1 キャリア教育とはどのような教育ですか？

A 1 児童・生徒一人一人が，社会の中での役割や生き方を展望し，実現を図るために必要な意欲や能力を育てる教育です。

キャリア教育の内容について

「児童・生徒一人一人が，社会の中での役割や生き方を展望し，実現を図るために必要な意欲や能力を育てる」ためには，次のような内容に取り組んでいけばよいと考えます。

発達段階に応じたものの見方や行動の仕方の育成にかかわる内容
自己と社会をとらえ自分を方向付ける力の育成にかかわる内容
望ましい勤労観・職業観の育成にかかわる内容

キャリア発達について

キャリア発達とは，自分の過去や現在から将来を考え，自らの生き方を展望し，それを実現していく過程のことです。

勤労観・職業観について

勤労観とは，勤労に対する価値的な理解であり，働くことそのものに対する個人の価値的な見方や考え方，態度のことです。勤労が，職業としての仕事だけでなく，ボランティア活動や家事なども含む，働くことそのものを示しているということを理解することが大切です。

職業観とは，職業に対する価値的な理解であり，生きていく上での職業の意義や役割についての認識のことです。

資料

1 キャリア教育とは

「キャリア概念」に基づいて、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」。端的には、「児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てる教育」（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月28日）

2 キャリアとは

「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」（小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 平成18年11月）

「キャリア教育推進の手引」の中で「「キャリア」が個人から切り離して考えられないということ。「働くこと」は職業生活以外にも、個人が学校生活，職業生活，家庭生活，市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要があるということが書かれています。

3 キャリア発達とは

発達とは生涯にわたる変化の過程であり，人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中で，キャリア発達とは，自己の知的，身体的，情緒的，社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。（小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 平成18年11月）

「キャリア教育推進の手引」の中で，小学生は小学生にふさわしいものの見方や行動の仕方に基づいて，自己と社会をとらえ，自分を方向付けようとすることを例にあげ，一人一人のキャリア発達は，知的・社会的発達とともに促進されるので，一人一人の能力や態度，資質は，段階を追って育成されるということを理解することの必要性が書かれています。

4 勤労観・職業観とは

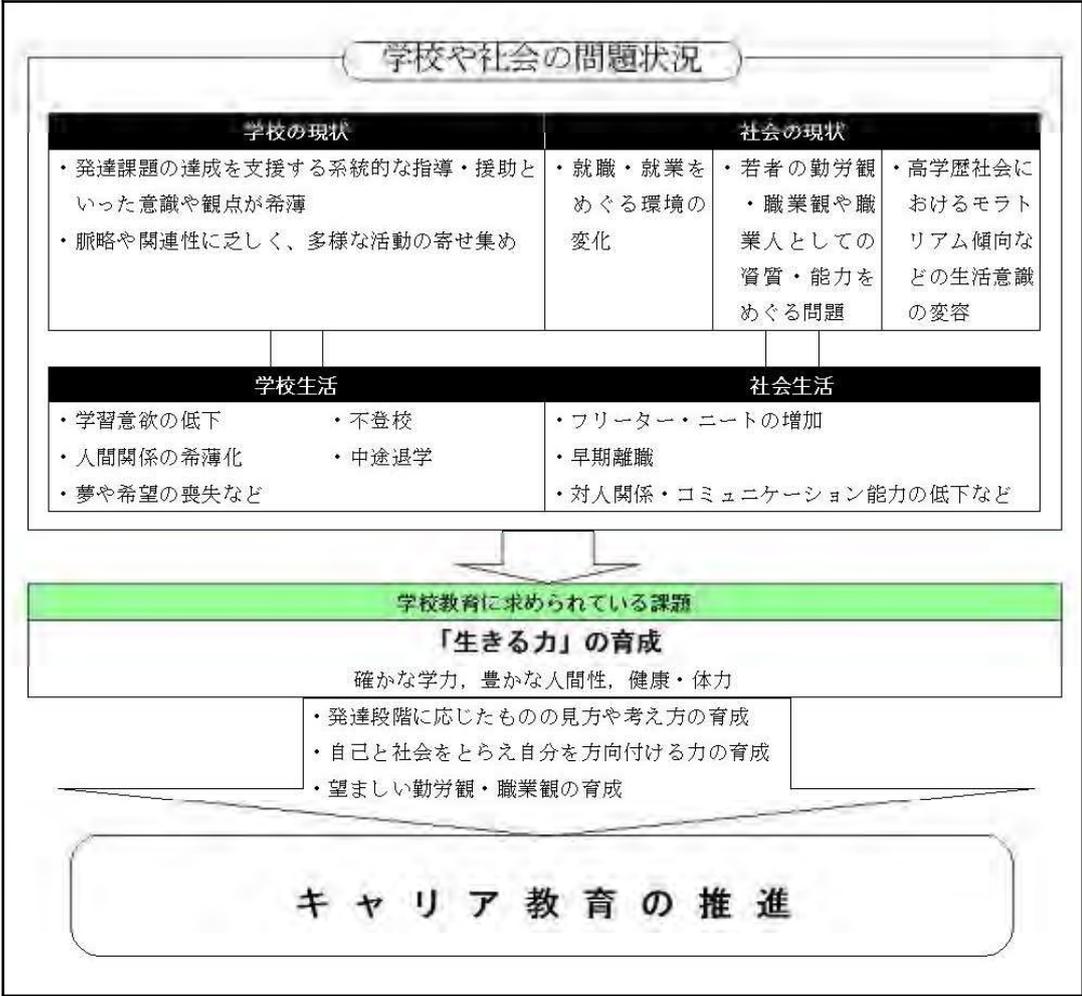
「職業観」は，人それぞれの職業に対する価値的な理解であり，人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識である。「勤労観」は，勤労に対する価値的な理解・認識である。職業としての仕事や勤めだけでなく，ボランティア活動，家事や手伝い，その他の役割遂行などを含む，働くことそのものに対する個人の見方や考え方，価値観であり，個人が働くこととどのように向き合っていくかという姿勢や構えを規定する基準となるものである。（児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について 平成14年11月）

「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」の中で，「職業観」には，様々な職業の世界及び職業倫理などについての理解や認識など，「勤労観」にはない独自の要素が含まれること。「勤労観」では，「職業観」に比べて役割遂行への意欲や勤勉さ，責任感などといった情意面が重視されるなどの違いがあることが書かれています。

Q 2 キャリア教育はどうして必要なのですか？

A 2 日々変化し続けている社会に流されることなく、今後直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応できる児童生徒を育てることが、学校教育に望まれているからです。

学校や社会の問題状況とキャリア教育推進の必要性



資料

1 学校から社会への移行をめぐる様々な課題

(1) 就職・就業をめぐる環境の激変

経済のグローバル化が著しく進展し激しい競争を強いられる中、企業はコスト削減や経営の合理化を余儀なくされ、製造部門の海外移転をはじめ、営業・販売部門等の再構築や、それに伴う雇用調整等を進めている。また、職業人に求められる資質や能力も大きく変化し、採用においては、即戦力志向の高まりや業務の高度化に伴って、経験者採用や中途採用、さらには、外部委託等の比重が高まるとともに、定型的業務については、正規雇用から一時的・非正規雇用（アルバイトやパート等）への切り替えが、広い範囲にわたって進められている。

このような動きに伴い、中学校・高等学校・大学を問わず、求人は著しく減少するとともに、求職希望との不適合が拡大し、新規学卒者の職業生活への移行に様々な問題を投げかけている。また、終身雇用や年功序列型賃金に象徴される従来型の雇用慣行が見直される中、若者にとって、将来の生活や社会人・職業人としての生き方を描くことが、かつてなく難しくなっていると考えられる。

(2) 若者自身の資質等をめぐる課題

働く事への関心、意欲、態度、目的意識、責任感、意志等、広い意味での勤労観、職業観の未熟さをはじめ、コミュニケーション能力や対人関係能力、基本的マナー等、職業人としての基礎的資質・能力の低下を指摘する声は、これまでになく大きく厳しい。

2 子どもたちの生活・意識の変容

(1) 子どもたちの成長・発達上の課題

「子どもたちの成長・発達をめぐるっては、身体的には早熟傾向があるにもかかわらず精神的・社会的自立が遅れる傾向にあること等が、各方面から指摘されている。また、最近では、遊びや消費活動、情報活用能力等における早熟化が進む反面、生産活動や社会性等に未熟さが見られるなど、発達上の課題が一層顕著になっていることが指摘されている。

(2) 子どもたちの成長・発達上の課題

少子化や家庭の経済的ゆとりの増大、高学歴志向等を背景として、大学、短大、専門学校等の高等教育機関に進学する者の割合は著しく上昇してきた。そうした動きに伴って、若者が職業について考えたり選択・決定したりすることを先送りする傾向、いわゆるモラトリアム傾向が強くなり、進学も就職もしようとしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者が増加していることが指摘されている。

（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月28日）

上記の課題等を受け、子どもたちが「生きる力」を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるようにするために、キャリア教育の推進が必要であると「キャリア教育推進の手引」に書かれています。

Q 3 キャリア教育ではどのような力を育成すればよいのですか？

A 3 各発達段階において，身に付けなければならない能力や態度を育成しなければなりません。

国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは，「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意志決定能力」の四つの能力と，さらにそれぞれを二つの下位能力に分けた例を示しています。

「例」という言葉が示す内容

国立教育政策研究所生徒指導研究センターで示した「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」や次ページ上の図のように「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」に『例』と示されたり、「キャリア教育推進の手引」の中の「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育」の図の中で，次ページ下の図のように四つの能力が例として前面に示されてはいるが，その他に「・・・能力」といういくつかの能力が表現されているのは，これを参考にして，各学校ごとに実状に応じて，各学校がねらう「職業観・勤労観」の形成に関連する能力を定めていくという意味が込められています。

また，「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」で示された「職業観・勤労観」の形成に関連する能力は，「職業観・勤労観」を職業や勤労に対する見方や考え方としてだけでなく，意欲や態度を含む広い概念としてとらえており，「職業観・勤労観」の形成に直接影響を与える能力だけでなく，間接に影響を与える能力・態度まで幅広く取り上げられてることも注意しなければなりません。

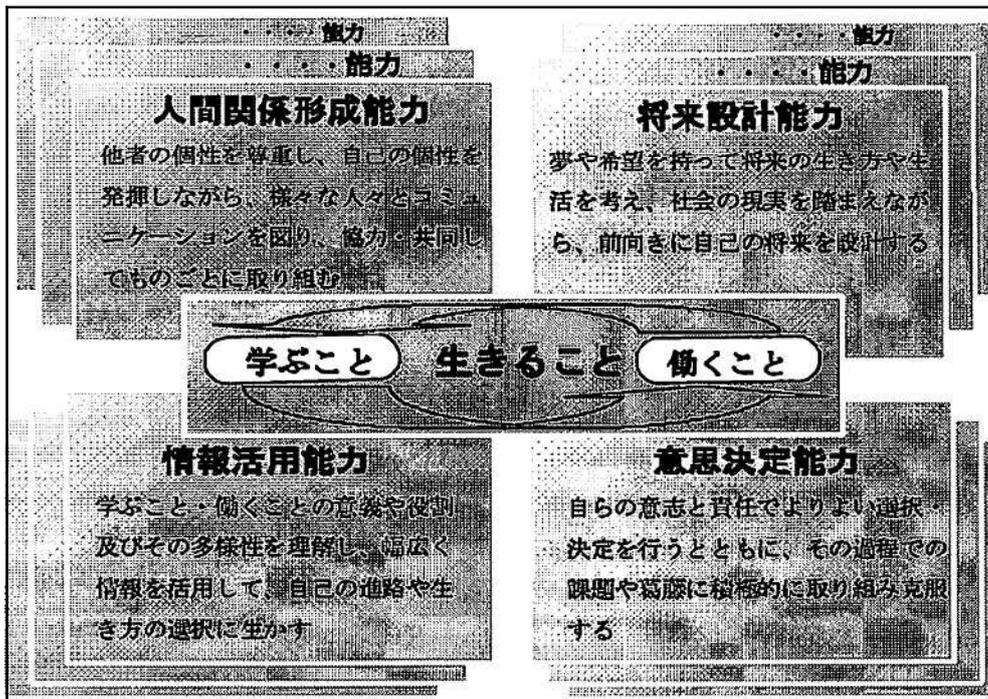
資料

1 キャリア教育にかかわる諸能力について

表 キャリア発達にかかわる諸能力（例）

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力を共同してものごとに取り組む。	<p>【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力</p> <p>【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p>
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	<p>【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力</p> <p>【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力</p>
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	<p>【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p> <p>【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力</p>
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	<p>【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力</p> <p>【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力</p>

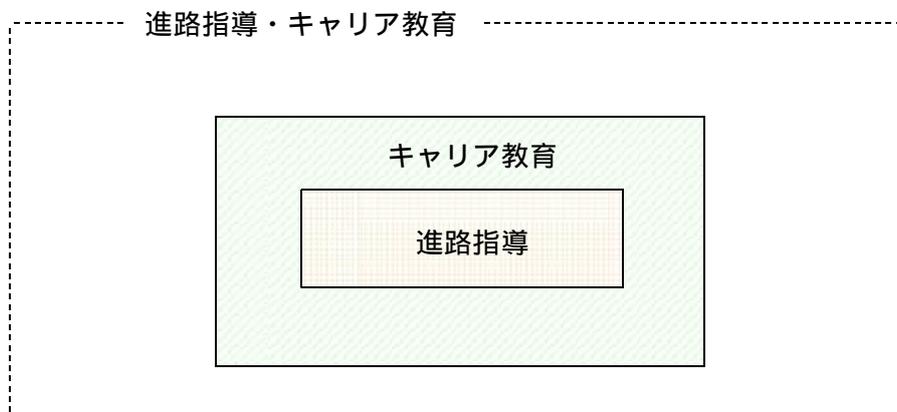
（国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から一部改訂）



（小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 平成18年11月）

Q 4 進路指導とキャリア教育はどう違うのですか？

A 4 進路指導とキャリア教育は，定義・概念としては大きな違いがありませんが，キャリア教育が，学校における全教育活動を通して継続的・系統的に行われることなどから，進路指導を中核として包み込みながらその外側にキャリア教育があります。



これまでの進路指導の課題

これまでの進路指導の取組が，「学校としての進路指導の目標や，それを実現するための指導計画が立てられていないことが多い」「第3学年の教師が進路指導主事を務めることが多く，1年で交代するために，計画的・継続的な進路指導を進めることができないし，合格可能な高等学校を判定する指導になりがち」「学校が行う進路指導に評価がない。また，あったとしても，どの高等学校に何名合格したかという評価の在り方になっている」など，ねらいを十分踏まえて行われていたとは言いがたい状態だったと言われていました。その結果，「一人一人の発達を組織的・体系的に支援する意識や姿勢，指導計画における各活動の関連性や系統性が希薄」「子どもたちの変容や能力・態度の育成に十分結び付いていない」「進路決定の指導や出口指導，生徒一人一人の適性と進路や職業・業種との適合を主眼とした指導が中心になりがち」になっていました。キャリア教育は，このような進路指導の取組の現状を改善すべく登場したと言うこともできます。

資料

1 進路指導，職業教育とキャリア教育

(1) 進路指導とキャリア教育について

ア 「進路発達」の指導

確かに，集団を対象とした「進路発達の指導」については，現在，職場体験やインターンシップ（就業体験）をはじめ，ボランティア活動，社会人・職業人講話等々，様々な体験活動が，中学校を中心として相当幅広く実施されるようになってきている。しかし，それを生徒の進路意識の向上や内面の発達に結び付ける指導については，まだまだ不十分であると言わざるを得ない。学級活動・ホームルーム活動における話し合い，グループや個人での調査研究，まとめ等の活動を充実し，積極的に展開していくことが求められる。

一方，個人を対象とした「進路発達の指導」については，従来，進路希望調査の際に行われる面談などを除けば，実施されている例はきわめて少ない。このことは，キャリア発達を支援する際にもっとも重要な個性の伸長という視点に立ち返った指導，その過程における生徒一人一人の発達の評価（点検・確認）などがいかに重視されてこなかったかを示すものでもある。

イ 適応にかかる指導の一層の重視

進路指導においても，適合とともに適応にかかる指導は重視されなければならない。しかし，従来の取組においては，生徒一人一人の適性と進路や職業・職種との適合を主眼とした指導が中心となり，適応にかかる指導は，それほど重視されてこなかったきらいがある。

そのため，キャリア教育においては，「生きる力」の育成や観点を踏まえ，基礎・基本を確実に身に付けさせ，豊かな人間性や社会性，学ぶことや働くことへの関心や意欲，進んで課題を見つけそれを追求していく力とともに，集団生活に必要な規範意識やマナー，人間関係を築く力やコミュニケーション能力など，幅広い能力の形成を支援していくことを，これまで以上に重視していく必要がある。

(2) 職業教育とキャリア教育について

従来，職業教育の取組において，専門的な知識・技能を習得させることのみに関心が置かれ，生徒のキャリア発達をいかに支援するかという視点に立った指導が十分行われてきたかどうかという点については，やはり，不十分な状況があったと言わざるを得ない。今後，キャリア教育の視点に立って，子どもたちが働くことの意義や専門的な知識・技能を習得することの意義を理解し，その上で，科目やコースについては将来の職業を自らの意志と責任で選択し，専門的な知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができるようにする指導を充実することが求められる。

職業教育は，就職，進学いずれの進路を選択するかにかかわらず，すべての子どもたちにとって重要であることから，生涯にわたるキャリアの基盤形成という観点からも，指導・援助の在り方を見直していく必要がある。

（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月28日）

Q 5 キャリア教育を進める上で、どのような点に注意すればよいですか？

A 5 キャリア教育を進める際に、少なくとも次の1～4に注意して取り組む必要があります。

- 1 特定の教科や領域で行うものではなく、全教育活動を通して行う。
- 2 全教職員がキャリア教育についての共通理解を図る。
- 3 家庭と連携しながら取り組む。
- 4 キャリア教育の視点を取り入れた教科や領域の授業を行う際は、教科や領域の目標をはずさない授業を行う。

共通理解の必要性について

児童・生徒一人一人が、社会の中での役割や生き方を展望し、実現を図るために必要な意欲や能力を育てるためには、特定の教科や領域だけで取り組むのではなく、全教育活動でキャリア教育を推進することが必要となります。そのためには、全教職員がキャリア教育について同じように理解し、系統的で一貫性を持った取組を行うことが大切になるので、校内研究会を設定し、全教職員が共通理解を図ることを進めなければなりません。

家庭と連携することの大切さについて

児童・生徒の成長や発達を促すことを考えると、学校と家庭が同じ方向を目指して取り組んでいくことが必要になります。教科や領域、職場体験活動などを通して、児童・生徒が「仕事には困難もあるが大きなやりがいもある」ことを学び、家庭での会話の中でも同じ方向性の会話がなされれば大きな効果が期待されます。そのために、学校だよりや授業参観などを通して家庭との連携を深めていくことが大切になります。

教科や領域でキャリア教育に取り組む際の注意点

教科や領域でキャリア教育の視点を取り入れた授業を行う際は、教科には教科の、領域には領域のねらいがあることを忘れてはいけません。教科の授業のはずなのに、職業観を養う内容に特化し、教科本来のねらいを達成しないまま終わる授業や、授業の導入時にグループの話し合い活動を数分間行ったのでコミュニケーション能力の育成を図ったという授業などは悪い例と言えるでしょう。キャリア教育の視点を

無理矢理こじつけたような授業等ではなく，教科や領域の本来のねらいに向けた授業でキャリア教育の視点と深く関わるものだけをピックアップし，それらを関連付け，系統的で一貫性を持ったものにしていくことが大切になります。

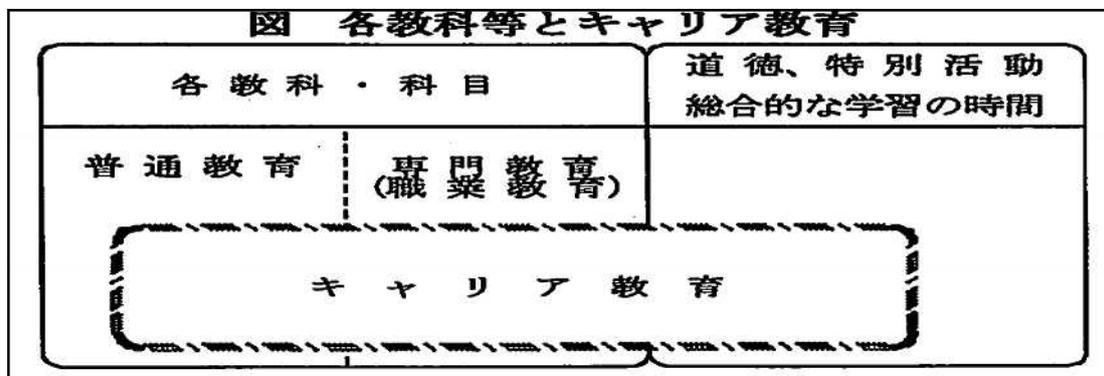
資料

1 キャリア教育は学校の教育活動全体で取り組む

キャリア発達には，児童生徒が行う全ての学習活動等が影響するため，キャリア教育は，学校の全ての教育活動を通して推進されなければならない。

2 各教科等とキャリア教育

教育課程は，各教科と道徳，特別活動，総合的な学種の時間からなり，また，高等学校の教科・科目は，普通教育と職業教育を中心とする専門教育とに大別できる。これらとキャリア教育の関係は，大まかに下図のように示すことができる。



3 家庭の役割

家庭は，子どもたちの成長・発達を支える重要な場であり，様々な職業生活の実際や仕事には困難もあるが大きなやりがいもあることを，有形無形のうちに感じ取らせることが重要である。同時に保護者が学校の取組を理解し，学校と一体となって子どもたちの成長・発達を支えていくことが，今後ますます強く求められてくる。

(小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 平成18年11月)

Q 6 小学校と中学校の連携はどのように図ればよいのですか？

A 6 小学校と中学校の連携を図る上で一番大切なことは、小学校と中学校の教師が明確で具体的な目標を共有するという事です。「小中連携自体」を目的とするような取り組みでは長く続かないばかりか、負担になります。

小学校と中学校の教師が目標を共有することについて

教師の人的交流の機会や、意見交換の機会をいくら増やしても、小学校と中学校の教師が明確な目標を共有していなければ、情報交換会の域を出るのは難しいことです。そこで、小中連携を図る際には、「自分の学校では、なぜ小中連携を図る必要があるのか」「小中連携を通して何を実現したいのか」をきちんと考えることが大切です。

目標を共有化し具体化すると、各学年で子どもに考えてほしいこと、身に付けてほしい勤労観・職業観が見えてきます。中学生が小学生と同じ題材・活動材で学習するにしても、目標に応じた活動や体験の工夫ができていれば、学習としては繰り返すにはなりません。

連携体制づくりについて

小学校と中学校が一貫した考えに立ってキャリア教育を進めるには、推進していく組織を作ることも大切です。例えば、学区内の小・中学校の教員がテーマにそって継続的に話し合いを行う組織として「小中連携推進部」を作るなどです。小学校、中学校の校種の違いにとらわれることなく、それぞれの教員が課題と感じていることを率直に出し合い、子どもの発達について協議していくことで、連携が強化されます。1中学校複数小学校による小中連携を進める場合には、中学校が全体を統括するような組織をつくるとスムーズに運営できます。

小中連携を図る手順

- 1 職業的発達にかかわる四つの能力領域と八つの能力・態度を確認します。
- 2 児童生徒や地域の実態を把握し、目指す児童生徒象を明確にします。
- 3 目指す児童生徒を具現化するため、児童生徒に身に付けたい四つの能力領域にかかわる能力・態度を発達段階ごとに設定します。
- 4 教科・領域や総合的な学習の時間など、すべての教育活動において体系化し、計画的、組織的に育むことができるようにします。

資料

職業理解力の育成に焦点をあてた連携の例 目標の共有化

平成18年度に、当総合教育センターが作成した「小学校キャリア教育・実践の手引き 1 理論編」キャリア教育全体構想のマトリクスを参考に、仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域の中の職業理解力の育成に焦点をあてた小学校中学年と中学校の連携の例を示します。

諸能力 段階	【勤労や職業に対する意欲・理解】 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域		
	【役割認識能力】 集団生活における様々な役割を理解したり、自己の責任を果たしたりする力	【職業理解力】 働くことの喜びや価値に気付いたり、様々な職業について理解したりする力	
小学校	低学年	<ul style="list-style-type: none"> 当番や係の大切さを知り、自分の責任を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当番や係などの仕事をやりとげることに喜びに気付く。 家族の仕事や、身の回りの職業に関心をもつ。
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を支える人々の役割を知り、自ら進んで責任を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの楽しさを知り、進んで係や当番に取り組む。 いろいろな職業があることを知り、職業について興味・関心を高める。
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活には様々な役割があることや、その大切さを知る。 自己の役割を知り、進んで責任を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活を支える職業の役割や働くことの大切さ、苦勞を知る。 関心のある職業について、興味を広げ理解を深める。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> よりよい集団活動のための役割分担や、その方法等がわかる。 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤勞の意義や働く人々の様々な思いを知る。 職業についての特色や必要な資質等の理解を深め、自らの生き方や進路選択について考えることができる。 	
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じて自己の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たすことができる。 ライフステージに応じた個人的・社会的な役割や責任を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な職業観・勤勞観を理解し、勤勞や職業に対する理解と認識を深める。 職業生活における権利や義務、就業方法等についての理解を深める。 	

小学校中学年「係の仕事」(特別活動)

《単元の目標》・係の仕事をする意味を考え、働くことの意義に気付く。
 ・クラスの一員であることを認識し、係の仕事をとおしてクラスの友達のために役に立とうとする。
 ・係の仕事を工夫し、計画的に活動に取り組む。



中学校「職場体験学習を通して学ぶ」(総合的な学習の時間)

《単元の目標》・自分の興味や関心が、職業とどうつながっていくのか考えさせる。
 ・働く目的を考えると同時に、学ぶ目的もしっかり考えさせる。
 ・各自の希望職業をふまえ、生き方のイメージをもたせる。
 ・年齢段階を設定することにより、働く目的が変化していくことを理解させる。

資料

小学校・中学校が連携し、体験活動と一緒にすることは、児童生徒に、働くことの充実感や人の役に立つことの喜びなどを感じさせる上で有効な学習です。

小学生にとっては、中学生との交流を通じて中学生への憧れや希望をもち、目標を持って努力する意欲や態度、キャリア教育でめざす課題解決の能力・態度が育成されるものと思われま

す。中学生にとっては、小学生の手本になれるように自己を高めたり、小学生とのふれあいの中で社会性を高めたりしながら、キャリア教育でめざす人間関係を構築する力が育成されるものと思われま

《テーマ》 守ろうわたしたちの地域

- ・中学生と小学生がグループになって、一つのテーマのもと様々な活動に取り組む実践です。
- ・中学生は、出身小学校へ出かけて、小学生と交流しながら活動します。
- ・活動内容は、小学校の規模によって若干変わります。

中学校

A 小学校 (中規模校)

- ・小学校の縦割りグループと中学生が花の苗植え
- ・小学校4～6年生と中学生全員がグループになって地域の清掃活動

B 小学校 (大規模校)

- ・小学校1・2年生と中学校3年生がサツマイモの苗植え
- ・小学校3・4年生と中学校2年生が花の苗植え
- ・小学校5・6年生と中学校1年生が資源回収活動

C 小学校 (小規模校)

- ・小・中学生が全員で花の苗植え・小・中学生がグループになって地域の清掃活動

キャリア教育を実践しましょう

1 キャリア教育推進の手順

(1) 学校が育てたい生徒像を明確にする

学校という組織が、生徒の成長や発達のために十分に機能するためには、すべての教職員が「教育活動を通してどのような生徒を育てたいのか」という明確なゴール像を持ち、ベクトルを一つにして取り組んでいくことが不可欠となります。そのためには、職員会議等で十分この点について議論される必要があります。キャリア教育に取り組む中で、迷いが生じてきたときは「学校が育てたい生徒像」に戻って考えてみると方向性が見えてくることが多いと思います。

(2) 学校教育目標、教育方針等にキャリア教育を位置付ける

学校教育目標、教育方針、学校が育てたい生徒像などを含んだ「キャリア教育全体計画」を作成し、キャリア教育を学校教育の中にきちんと位置付けます。きちんとした計画なしには良い活動は生まれません。また、計画がなければ点検・評価を行って改善することもできません。

(3) 学校組織の分掌に、キャリア教育推進委員会を設置する

キャリア教育は、学校教育活動全体で取り組んでいくべきものなので、担当者一人で推進することはできません。学校長が委員長となり、渉外やPTA・地域との連携等を担当する教頭、教育課程編成等を行う教務主任、教科学習や総合的な学習等を進める研究主任、道徳教育を進める道徳主任、特別活動を進める特別活動主任、進路指導計画等を進める進路指導主事、生徒指導を担当する生徒指導主事、学年行事等を進める学年主任などをメンバーとしてキャリア教育推進委員会を設置し、学校教育活動全体が効果的に機能するようにしなければなりません。

(4) 校内研修等でキャリア教育について共通理解を図る

キャリア教育は、学校教育活動全体で取り組んでいくべきものなので、全教職員が

キャリア教育が求められる背景

キャリア教育の意義や定義

キャリア教育で育成すべき能力や態度と「学習プログラムの枠組み」

などについて校内研修等で計画的・系統的に研修を行い、共通理解を図る必要があります。

キャリア教育への取組が進んでいる学校では、更にキャリア・カウンセリングの基本的な能力の習得のための研修なども企画していく必要があります。

(5) キャリア教育の視点で教育課程を整備する

学校が育てたい生徒像にせまるためには、学校の強み・弱みを含んだ特色をしっかりとおさえ、生徒の発達段階を踏まえた自校の学習プログラムや取組内容の重点を設定した上で、キャリア教育年間題材一覧や単元計画を作成し、キャリア教育の視点で教育課程を整備していかなくてはなりません。このことによって、キャリア教育への取組が学校全体のものになり、組織的・系統的なものになっていきます。

(6) 家庭や地域にキャリア教育に関する取組を知らせる

キャリア教育で身に付けさせたい力の一つである、「役割の理解」や「役割を果たそうとする意欲」は、『学校での係活動 家庭での手伝い 地域の行事の手伝い』のように様々な場面で役割を果たす経験を積み重ねることによって価値形成が行われていきます。学校・家庭・地域がキャリア教育の支援者として同じ方向性で取り組むためには、授業やゲストティーチャーによる講演会を家庭や地域に公開することや、学校だよりや地区の懇談会の中で、学校のキャリア教育への取組や方針等について理解を深めるための努力をしていくことが大切になります。

また、キャリア教育に学校・家庭・地域が一体となって取り組むことによって、地域の産業やそこで働く人々への理解が深まり、教員や生徒の地元に対する愛情や誇りを育てることもつながっていきます。

(7) キャリア教育の取組について評価を行う

評価を行う際、

評価が評価のための評価に終わらないように注意し、指導と評価の一体化を進める
キャリア教育は、生徒一人一人のキャリア発達を支援するものなので、生徒一人一人を評価する視点を忘れない
定量的な評価だけでなく、生徒の感想や記述されたワークシートなどから質的な評価も行う
生徒への評価だけでなく、目標の設定や指導が適切であるかなどの教員の取組の評価も行う
単元や単位時間の評価だけでなく、キャリア教育の全体計画等の評価も行う

などに留意することが大切になります。また、このような評価を行うためには、キャリア教育で利用した資料やワークシートを一括したポートフォリオを作成することが有効です。

2 キャリア教育全体計画作成手順

～ の順番（ は次頁に記載）で作成し、完成したものが下に示すキャリア教育全体計画です。具体的作成手順は、次頁に示します。

〇〇中学校キャリア教育全体計画							
キャリア教育の目的 生徒一人一人が、社会の中での鍵や生き方を展望し、実現を図るために必要な意欲や能力を育成する キャリア教育の内容 ○発達段階に応じたものの見方や行動の仕方の育成 ○自己と社会をとらえ、自分を方向付ける力の育成 ○望ましい勤労観・職業観の育成		学校の教育目標 ○自ら求め学習する生徒（自己教育力） ○自ら心身を鍛える生徒（たくましい心と体） ○明るく思いやりのある生徒（豊かな心） ○自他の良さを生かす生徒（個性の伸長） ○すすんで働き協力する生徒（勤労と社会性）			教育関係法規 日本国憲法 教育基本法 学校教育法 中学校学習指導要領 岩手県学校教育指導計画 生徒の実態 ほぼ全員の生徒が進学希望である。自己表現力がやや乏しく、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーション能力、他者との関わり方に課題がある。		
めざす学校像 ○信頼関係のもと、教育目標具現化に向け、教師と生徒が一体となる学校 ○明るく中でも厳しさをもって、ともに励まし高め合う学校 ○他域とともに健康な心身を育む学校 ○喜びと自信、感動を呼び起こす学校 ○明るい挨拶が響き合う、楽しい学校							
家庭・地域の実態 地域が学校に寄せる関心、期待は大きい。ほぼ全員の保護者が高等学校へ進学させたいと考えているが、家庭学習の習慣化など、基本的な生活習慣を身に付けさせることにおいて、家庭の役割が低下してきている。							
目指す生徒像 「心豊かでたくましく生きる生徒の育成」							
キャリア教育指導目標 社会の中での鍵や生き方を展望し、実現を図るために必要な意欲や能力を育てる							
関わる力		学ぶ力		生き方を見つめる力		判断する力	
自他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力	課題解決能力
学年指導目標							
第1学年		第2学年		第3学年			
○自分のよさや個性を理解することができる ○自己と他者の違いに気づき、尊重することができる ○集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとすることができる ○将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解することができる ○将来に対して漠然として夢や憧れを抱くことができる		○自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解することができる ○社会の一員としての自覚が芽生え、社会や大人を客観的に捉えることができる ○轉等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いを理解することができる ○よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して、自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解することができる		○自己と他者との個性を尊重し、人間関係を円滑に築くことができる ○社会の一員としての役割には、義務と責任が伴うことを理解することができる ○係・委員会活動や職場轉等を得たことを、以後の学習や進路に生かすことができる ○将来の夢を達成するための課題を理解し、その克服のために努力をすることができる			
教科・領域等における指導内容							
各教科	道徳	特別活動			総合的な学習の時間	その他の教育活動	
		学級活動	学級行事	生徒会活動			
○将来の職業生活に必要な基礎的知識や技能 ○自己の能力・適性についての理解 ○計画的な学習の進め方 ○コミュニケーション等の基礎となる記述・説明・論述・討論活動	○勤労の尊さや働く喜び ○奉仕の精神や地域社会の一員としての自覚 ○よりよい生活や価値観 ○自己の所属する集団の意義	○基本的な生活習慣の形成 ○社会の中での役割や生き方 ○集団を支えることへの理解と責任 ○調和のとれた心身の発達	○異年齢との好ましい人間関係づくり ○集団の中での役割や責任の遂行 ○他域の一員としての自覚 ○奉仕活動やボランティア活動の意義	○計画的・系統的に物事を進める意味 ○集団を支える組織や役割の理解 ○協力して諸問題を解決しようとする自主的・主体的な態度	○自ら課題を見付け、学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力 ○問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度 ○自己の生き方を考えること	○日直、清掃、係活動、委員会活動等における役割の理解と責任の遂行	
キャリア教育推進のための基盤							
学級・学年経営の充実	基本的な生活習慣の確立	キャリア教育についての教職員の共通理解	PTA及び地域の諸機関との連携	地域の諸行事、人材、探究等を生かした課題開発	〇〇小学校との協力、連携		

3 キャリア教育全体構想表の作成手順

キャリア教育全体構想表の作成手順は次のとおりです。

- 1 「キャリア教育学習プログラムの枠組み」と「キャリア教育全体計画」を基に、諸能力が組織的・系統的に育成できるように、年間の題材配当を考えます。
- 2 これまでの教科・領域・総合的な学習の時間のどの指導計画に、キャリア教育の視点を位置付けることができるかどうか検討します。その上で、それぞれの活動の中でどんな諸能力を育成できるか一覧にして整理します。
- 3 題材、指導時期、指導のねらい、他教科・領域等とのバランスを考えながら、全体構想表にまとめます。

年問題材一覧表

教科や領域等にキャリア教育の視点を位置付け、全体構想表を作成するためには、それぞれの教科・領域でどんな能力を育成できるか明確にする必要があります。その際、新たに年問題材一覧を作成するのではなく、これまで行ってきた指導計画を生かしていくことが大切です。

作成に当たっては、はじめに、キャリア教育学習プログラムの枠組みやキャリア教育全体計画を基に、組織的・系統的に諸能力の育成が図られるように題材の配当を考えます。次に、育成したい諸能力をおさえます。その際、従来の学習では育成が不十分なものについては、これまでの活動を吟味・検討した上で、新たな題材を配当していくことも必要になってきます。

キャリア教育の視点を位置付けた第1学年学級活動の年問題材一覧

キャリア教育の諸能力

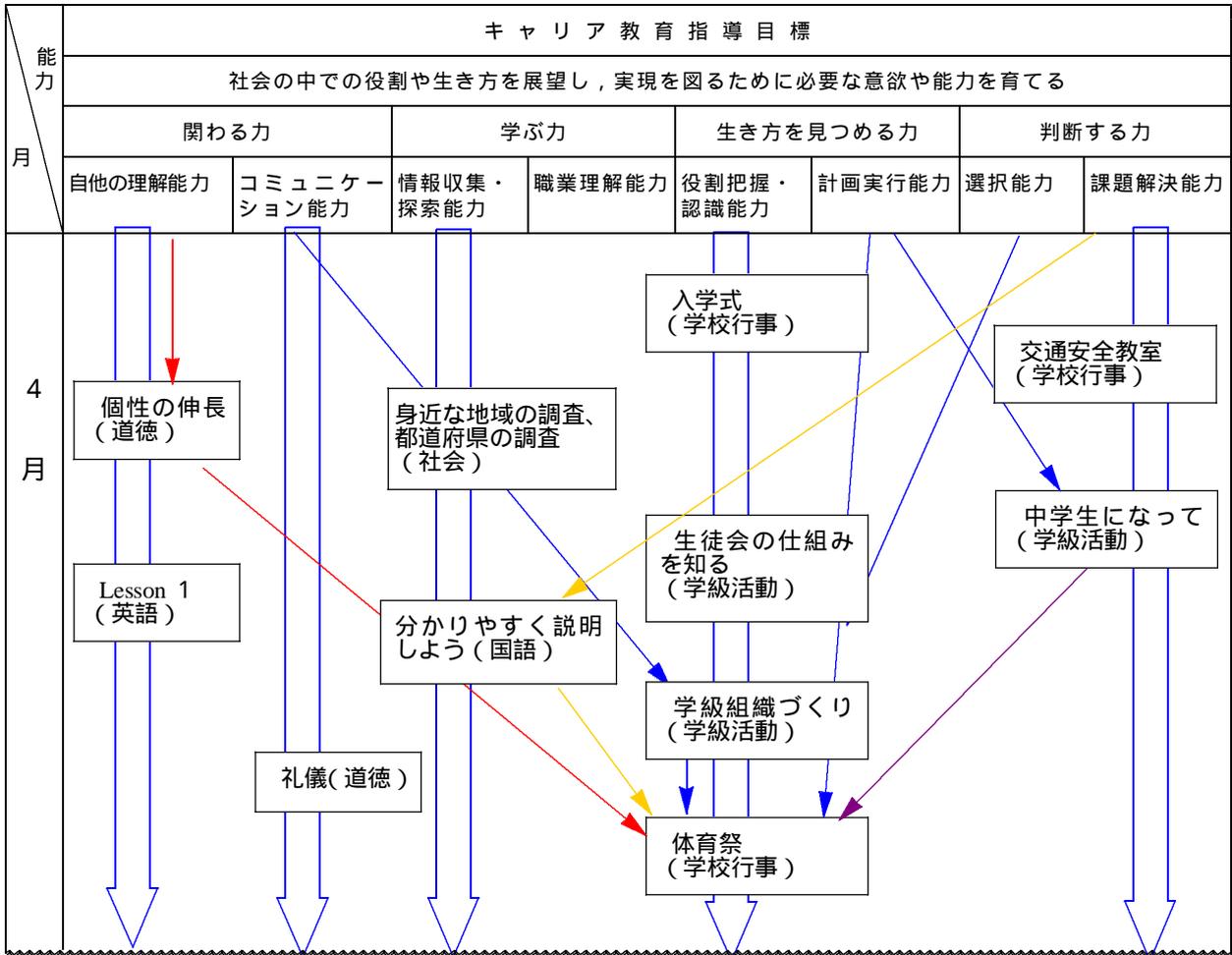
キャリア教育の視点を多く含む活動を選定します。

題材名	学習指導要領の内容 指導のねらい	進路発達	にかかわる能力	課題解決能力					
		自己の理解能力	コミュニケーション能力		情報収集能力・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力
4	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になって 生徒会活動のしくみを知る 学級組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 学級のスタートに当たって意欲的な中学校生活を送れるように決意と希望を持たせる。 生徒手帳を参考に生徒会の仕組みと運営について学習する。 学級役員に積極的に立候補させ自治的生活の芽を育てる。 							
5	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい学習方法 中学生の生活 楽しい給食 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のしおりを参考に自ら進んで学習する態度を育てる。 授業の受け方、家庭学習の取り組みについて意欲化を図る。 楽しい給食ができるように準備とその手順について考える。 							

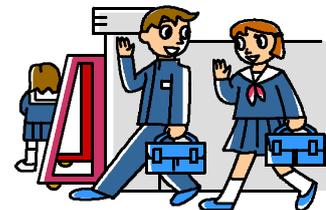
全体構想表

中学校は、教科担任制です。さらに各教科等の学習の特性も小学校より顕著になります。キャリア教育の内容を関連させた全体構想表を作成することによって、それぞれの教科・領域等でどのようなキャリア教育の諸能力を育成すればよいのか明確にすることができるとともに、教育内容の関連が見えてきます。

花巻市立湯口中学校の題材一覧表を基に作成した構想表



キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じて展開されるものです。教科や他領域との関連を全体構想表の中で矢印で示すことによって、どの教科・領域に収束されるか見えてきます。例えば、上記の例では、4月のキャリア教育は、体育祭に収束されるというようにです。つまり、全体構想表を作成するで、これまでの教育活動を体系化できるのです。その際、「生徒の実態」「保護者の願い」「地域の実態」「小学校・高等学校との連携」の四つの視点を用いると、生徒の実態や学校の課題・地域に根ざした明確な構想を示すことができます。



4 キャリア教育の視点を取り入れた学習指導案の作成

キャリア教育の視点を取り入れた学習指導案作成のポイントは次のとおりです。

指導目標，活動内容，指導方法を明確に押さえましょう。

多様な学習活動を取り入れ，生徒の主体的な学習を促しましょう。

家庭や地域などとの連携を図りましょう。

実践活動だけでなく，事前や事後の活動も重視しましょう。

教科・領域や総合的な学習の時間との関連を押さえながら，組織的・系統的な指導をめざしましょう。

小学校や高等学校との連携を図りましょう。



ポイント

教育課程上の位置付けを
標題で示します。

第1学年 特別活動 学習指導案

1 題材名「自分を知る，友達を知る」

2 題材設定の理由

(1) 題材について

中学校特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。」である。集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築いていくためには自分をよく知ることが必要不可欠である。しかし，地道な努力が社会的な成功に必ずしも結びつかないといった風潮がある中で，よりよい生活や人間関係を築いていくため自分を高めていこうとする意欲を持たせることは容易なことではない。このような思いを抱きがちである中学校1年生の生徒に，「動き出すことで自分が変わること」「自分を高めていこうとする意識をもたせること」は，大切なことである。そのためには，自分を知り，自分のよさを生かしながら，課題に対して見通しを立てて計画的に取り組んだり，なかなかうまくいかなくてもあきらめずに最後までチャレンジしたりする力をつける必要がある。また，友達のよさも知り，お互いに支え合い高め合うことも必要である。なぜなら，自分の感情や考えを素直に伝え，相手を理解すること，協力して活動することは，将来の社会生活，職業生活においても欠かすことのできないものだからである。よって，自他の理解をうながすこの題材は，適材である。

(2) 生徒の実態

学級は，同小学校から進級した生徒で構成されている。明るく，男女ともに仲が良く，与えられた役割や課題に責任を持って取り組むことができる。反面，お互いのイメージが固定化しており，自分や友達の新しい一面を発見したり，お互いの力を高めあったりしようとする姿勢にやや欠ける面が見られる。

ポイント

キャリア教育の視点を加
味しながら題材の価値を
考えます。

特別活動の目標や本題材
で行う学習活動のどの部分
が，キャリア教育の視点と
重なるかを考えていくこと
が，大切です。

ポイント

題材にかかわる生徒の実
態を把握します。

ポイント
本題材をとおして育成したいキャリア教育における能力目標を記載します。

ポイント
事前・事後の活動や他の題材との関連を含めた一連の流れを具体的に記載します。

ポイント
目標、計画を明示します。

ポイント
授業の準備や事前の指導のポイントを記載します。

ポイント
指導過程に応じて、指導のポイントや目標達成のための指導上の留意点、工夫点を具体的に記載します。

ポイント
事後指導のポイントを示し、事前指導からの一連の指導で目標実現を図ります。

ポイント
他教科等の関連の視点を示し、組織的・発展的な指導を図ります。

(3) 本題材とキャリア教育のかかわり
本題材は、キャリア教育学習プログラムの枠組みにおける、領域「人間関係形成能力」の「自他の理解能力」を取り込む。この「人間関係形成能力」は、他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協同して物事に取り組むことをめざすものである。

(4) 指導の構想
本題材の指導において、大切にしたいことは、次の2点である。
・一人一人の生徒が、自己を肯定的にとらえることができるようにすること
・他からの評価を受け止め、自分を客観視できるような目をもたせのを行わせ、いろいろな視点から改めて自分にどんな個性があるか考えさせ自己理解を深めさせる。次に他の人の個性に目を向けさせ、いろいろな個性や適性や価値観があることを知らせる。その上でお互いを認め合い、高めていこうとする意欲や態度を育てたい。そして、本題材での学習を生かし、進路学習を進めていきたい。

3 指導目標

- (1) 自分が持っている適性や個性に目を向け、その個性を伸ばそうとする意欲を持つことができる。
- (2) 他の人の適性や個性を知り、いろいろな個性があることを認め合うことができる。
- (3) 集団の中で自分の役割を自覚し、協力していこうとする姿勢をもつことができる。

4 指導計画（全2時間）

- (1) 自分を知るための視点や方法を知り、自分を知る（1時間、本時）
- (2) 他の人の個性に目を向け、いろいろな個性や価値観があることを知り、お互いを認め合いながら協力していこうとする（1時間）

5 展開

- (1) 目標・いろいろな視点で自分を見つめることで自己理解を深める。
・自分の個性を知り伸ばそうとする意欲をもつ。

(2) 展開

事前
・本時の学習を始める前に、友達の長所や個性についてワークシートに記入させておく。

	学習活動	指導上の留意点 評価
本時	1 友達当てクイズにより、人にはいろいろな個性があることに気付く。	特徴から人物を特定できることに気付かせ、自分の個性に目を向けさせる。
	自分を知らう	
	2 自分の個性を知るための方法を知る。	自分の個性を知る方法をいろいろな挙げ、1つの方法として自己分析チェックを紹介する。
時	3 自己分析チェックを行い、自分の個性を考える。	自分自身をよく見つめ、できるだけ客観的にとらえられるよう説明する。
	事後 ・本時に使用したワークシートは回収し、生徒理解のためと第2学年の特別活動「自分を生かす職業」の題材で活用できるように資料として整理しておく。	

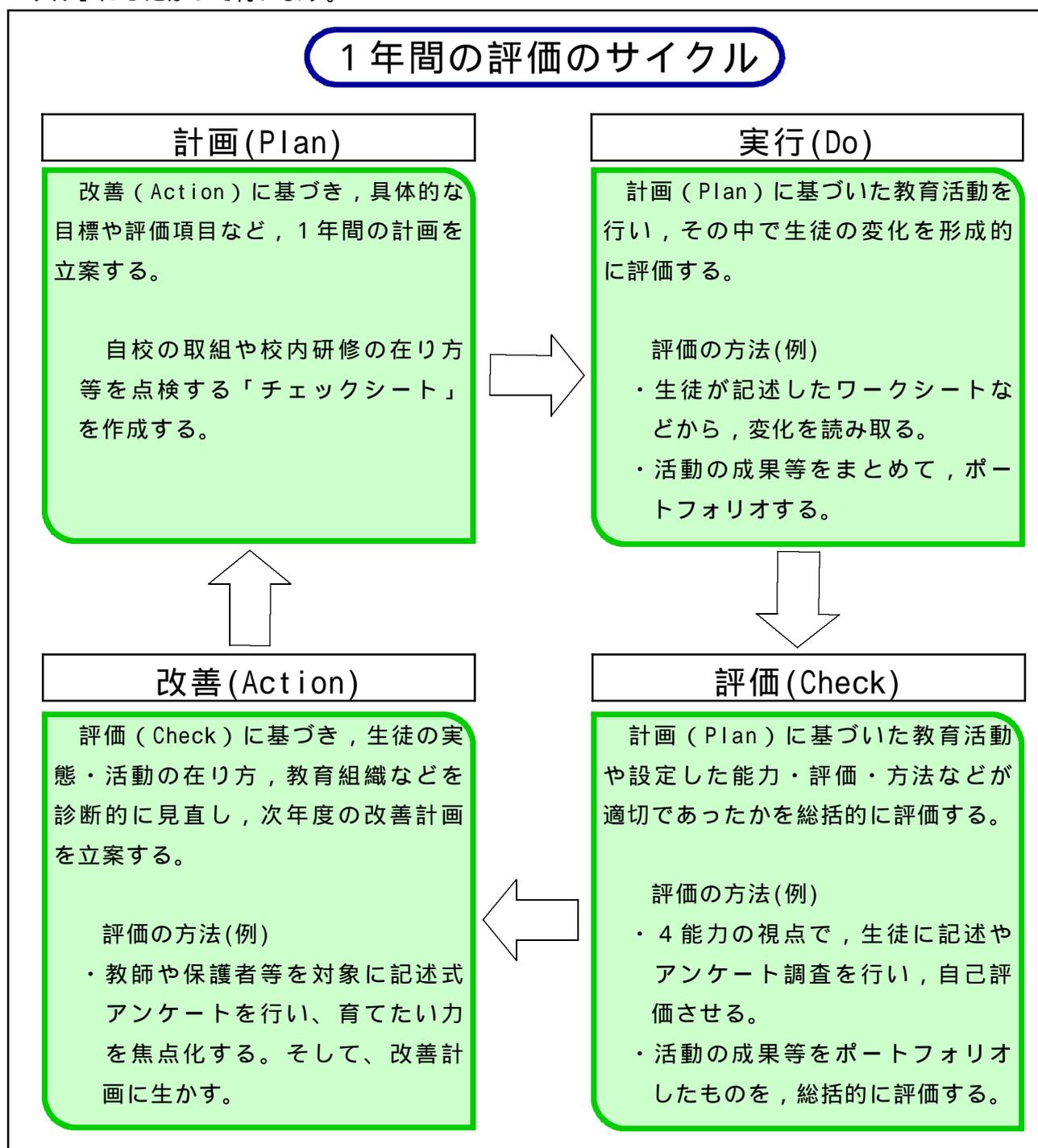
(3) 他教科・領域との関連
・文化祭（学校行事）において、本時学習を生かし役割分担させるとともに、協力して活動できるようにする。

5 キャリア教育の評価

キャリア教育の評価は、「計画（Plan） 実行（Do） 評価（Check） 改善（Action）」のサイクルで行います。その際、「1年間の評価のサイクル」と「教育活動ごとの評価のサイクル」の二つの側面から考えていきます。

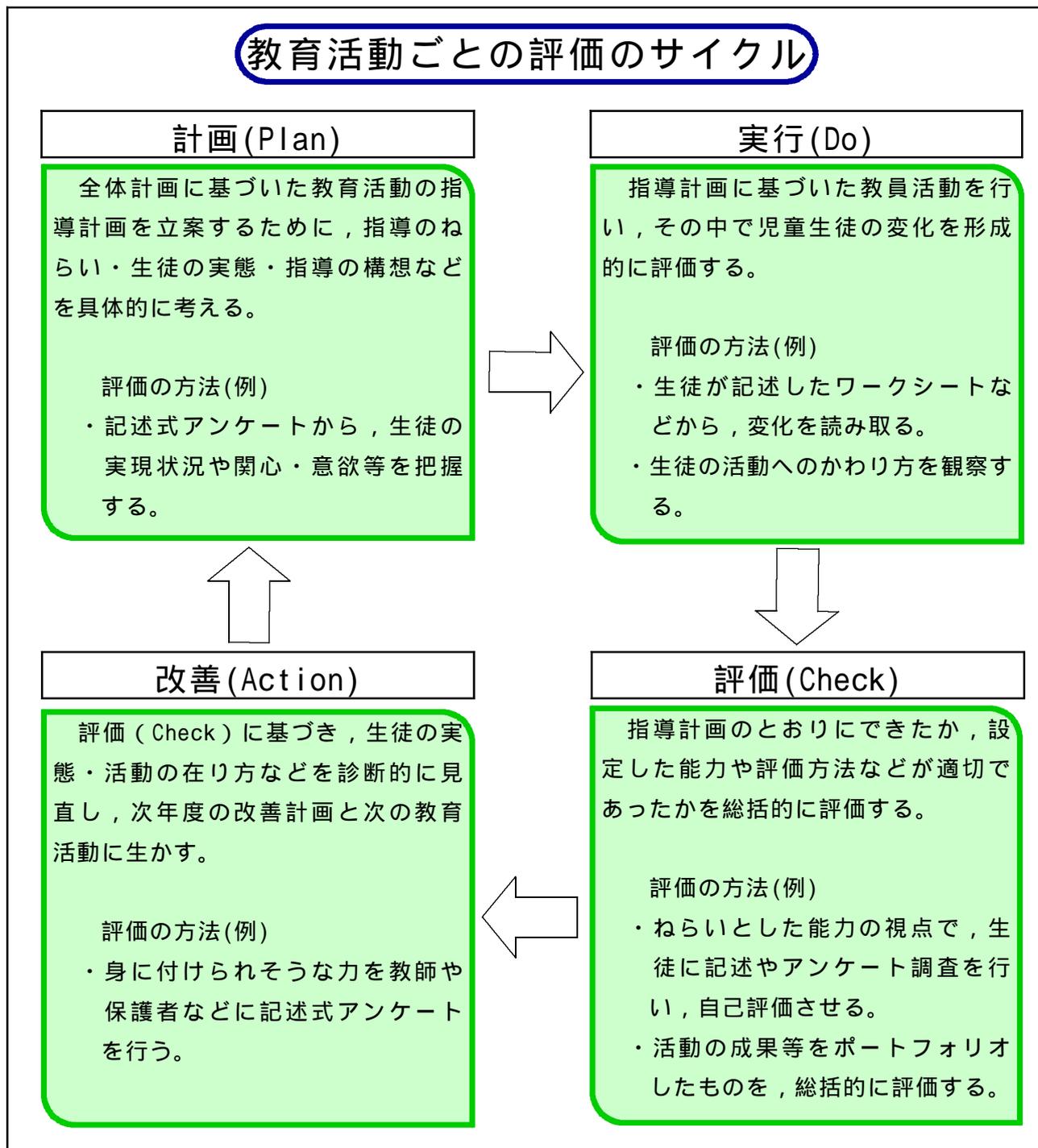
1 1年間の評価のサイクル

学校全体のキャリア教育を評価するためには、教職員の共通理解を基に、次の図のような「サイクル」にしたがって行います。



2 教育活動ごとの評価のサイクル

年間計画で設定した一つ一つの教育活動を評価するためには、担当者が中心となり、次の図のような「サイクル」にしたがって行います。



3 評価の具体的方法

具体的方法	
質的評価	記述式アンケート、ワークシートやポートフォリオなどに記述されたことを基にして行う。
量的評価	選択式アンケートの集計など、数や量に基づいて行う。

キャリア教育に関する参考資料

新潟県上越市立城北中学校の「教育計画2008」から抜粋した資料

城北中学校は、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を推進し、平成19年10月にキャリア教育優良団体として文部科学大臣表彰を受賞しています。

- 【参考資料1】キャリア教育の大綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.25
- 【参考資料2】教科、領域、総合的な学習の時間での付けたい力・・・・・・・・ p.26
- 【参考資料3】教科の重点目標とキャリア教育・・・・・・・・・・・・・・・・ pp.27 - 28



岩手県八幡平市教育委員会の資料

八幡平市教育委員会は、職場体験をキャリア教育の柱と考え、平成20年度からキャリア・スタート・ウィーク推進組織を立ち上げ、市内全中学校に職場体験学習を広げる取組を始めました。

- 【参考資料4】八幡平市キャリア・スタート・ウィークへの取組・・・・・・・・ p.29
- 【参考資料5】平成20年度八幡平市キャリア・スタート・ウィークの実施について・・ p.30
- 【参考資料6】平成20年度八幡平市中学校職場体験学習実施計画・・・・・・・・ pp.31 - 32
- 【参考資料7】八幡平市の中学校における職場体験の実施状況・・・・・・・・ p.33



【参考資料1】キャリア教育の大綱

6 キャリア教育の大綱

1. ねらい

- ・ 自分の将来に夢をもち、自己を見つめ、主体的に活動する能力や態度を育てる。

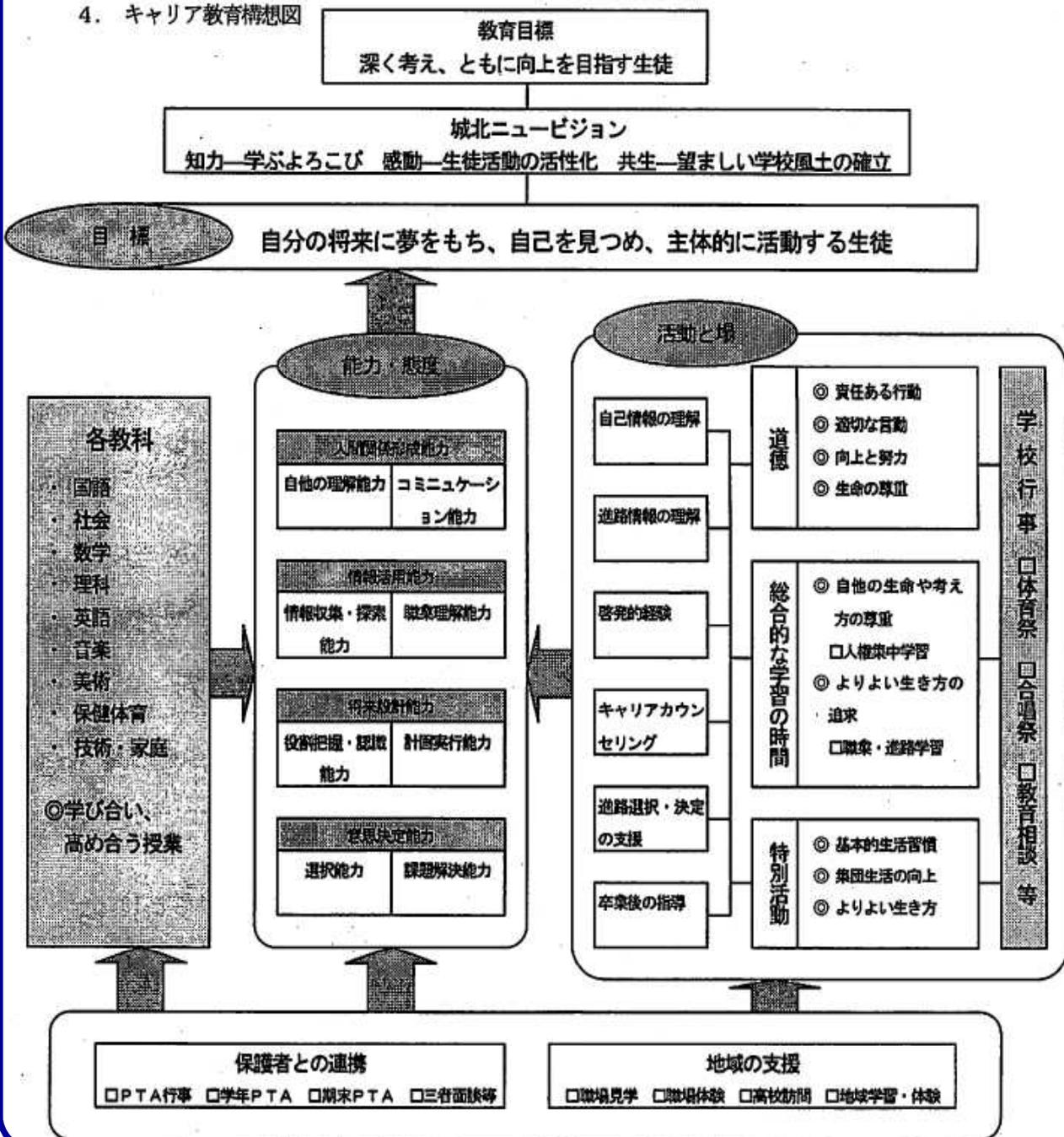
2. 指導の方針

- ・ 学級活動の時間を中心に、総合的な学習の時間、特別活動、道徳、教科において、キャリア発達を促すための能力や態度を計画的、継続的に養う。

3. 具体的実践の方策

- ・ 各種行事の目標やねらいをキャリア教育の視点からとらえ直し、適切な評価活動を行う。
- ・ 特別活動、道徳、総合的な学習の時間の統合カリキュラムを作成し、有機的な教育活動を展開する。
- ・ 教科等において、キャリア発達にかかわる8つの能力との関連を明確にした学習指導を行う。

4. キャリア教育構想図



教科の重点目標とキャリア教育

	教科の重点目標	キャリア発達を促すための具体的方策 (キャリア教育の能力)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えや思いを正確に理解したり、豊かに想像したりする力を育てる。 ・互いの考えを知り、交換し合いながら練り上げ、よりよい表現で伝え合う力を高める。 ・進んで読書し、得た情報を自分の表現に積極的に活用する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎目的や条件を明確にして自分の考えを論理的に述べたり、書いたりして深める場を設定する。 (課題解決) ○話し合いの手順や方法を具体的に提示し、様々な目的や条件に応じた効果的な話し合い活動を取り入れる。 (コミュニケーション、役割把握・認識) ○新聞・書籍・辞典など様々なメディアを効果的に活用する方法を身に付ける。 (情報収集・探索)
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・公民として必要な教養を身に付ける。 ・資料や他の人の考えから学んだり、自らの考えを発信したりしながら、社会的事象をより多面的にとらえ、より公正に判断する能力と態度を育てる。 ・学習内容と時事問題など実際の社会的事象とを結び付けて課題を追究する能力と態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎情報を収集、分析し、それを交換し合いながら考えを深める場を設定する。 (情報収集・探索) ◎実際の社会的事象を取り上げて学習内容と実社会とのかかわりに気付かせたり、時事問題を課題とした追究活動を仕組んだりして、社会問題に対する関心を高める。 (課題解決)
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に数学の学習に取り組み、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。 ・数量や図形などに関する基礎・基本を身に付け、論理的な考察や積極的な追求ができる能力を高める。 ・数学的な表現や処理ができ、それを共有したり進んで活用したりしようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の意見と他者の意見をともに尊重し、よりよい考えへと練り上げる場を設ける。 (自己理解) ◎学習内容に応じた学習形態や学習活動を設け、適切な表現方法で互いの考えを伝え合う場面を設定する。 (コミュニケーション)
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活との関連を重視した観察や実験を通して、身近な自然の事物・現象への興味・関心を高める。 ・身近な自然の事物・現象を探究する活動を通して、科学的なものの見方、考え方を育てるとともに、追求意欲を高める。 ・課題に応じてグループ活動を取り入れ、仲間と関わり、学び合おうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎コンピュータや図鑑等を活用し、必要な情報を探したり、観察や実験で得た情報を整理・分析し、発表する活動の場を設定する。 (情報収集・探索) ◎観察や実験のレポートを作成し、ねらい、方法、結果、考察の一連の追求活動の方法を身に付けさせる。 (課題解決)

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい音楽表現をめざし、主体的に技術を身に付け、創造的に表現しようとする態度を育てる。 ・多様な音楽に親しみ、音楽を愛好する心情を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎互いに認め合う場面を設定し、自信を持って自己表現できるように支援する。 (自他理解) ○目標をもった学習や活動の振り返りが、学年が進むに従ってスパイラルに向上するよう支援方法を工夫する。 (計画実行・課題解決) ○心を合わせ、響き合う音楽的感動体験を共有する。 (コミュニケーション)
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に、楽しみながら美術の活動に取り組む態度を育てる。 ・身の回りの自然や美術作品に親しみ、理解を深めたり、よさや美しさを味わったりする態度を育てる。 ・独創的、総合的な見方や考え方を培い、豊かな発想力や創造的な表現の技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎仲間の作品を理解し、互いに認め合う場面では、それぞれのよさや個性を批評し、交流し合う場を工夫し、指導に当たる。 (自他理解・コミュニケーション) ◎自己のテーマや目標を設定し、制作の計画を考えたりその修正を図ったりする場を設け、指導に当たる。 (計画実行・課題解決)
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動技能を身に付け、自ら運動を楽しむことのできる態度を育てる。 ・体力向上を図るとともに、健康・安全に関する知識を身に付け、明るく安全な生活を送ろうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎仲間のよさを理解し、互いに協力しながら自己の技能を高めることができるようグループ活動を工夫しながら指導する。 (自他理解) ◎自主的な活動を促すために、各種目において、より専門的な知識を身に付けさせる。また学習カードを工夫、活用しながら自己の課題を把握させ、進んで解決できるような場を設け指導する。 (課題解決)
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な技術について関心を持ち、生活を充実・向上させるための基礎的な技能を身につける。 ・生活の中に存在する課題を見つけ、習得した技能・知識を工夫して活用し、その解決を図る実践的な態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎インターネット・新聞・資料集などから生活に密着した話題を取り上げ技術の実践場面を理解させたり、それらから自分に必要な情報を収集・選択し活用させたりする場を設け、指導にあたる。 (情報収集・探索) ◎習得した技能・知識を正しく活用することはもちろん、生活の中やものづくりの過程で発生する課題解決のために、いかに工夫して活用できるかを考えさせたり、活動させたりする場を設け、指導する。 (課題解決)
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的事項を確実に習得させ、英語でコミュニケーションする力を高める。 ・個に応じた指導を充実し、自信をもって意欲的に英語を学習する態度を育てる。 ・自己表現場面を工夫し、他者からより良い考えや表現を学ぼうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ALTとのコミュニケーション活動やグループ活動を工夫し、学習の目的を明確にし、自己の役割をやり遂げさせる場面を設ける。 (コミュニケーション、役割把握・認識) ○自己の個性や興味をもとに、学習方法や学習課題を選択したり工夫したりさせ、自らの力をさらに伸ばす努力をさせる場面を設ける。 (選択能力・課題解決)

【参考資料4】

八幡平市キャリア・スタート・ウィークへの取組

八幡平市教育委員会

八幡平市キャリア教育プログラム開発

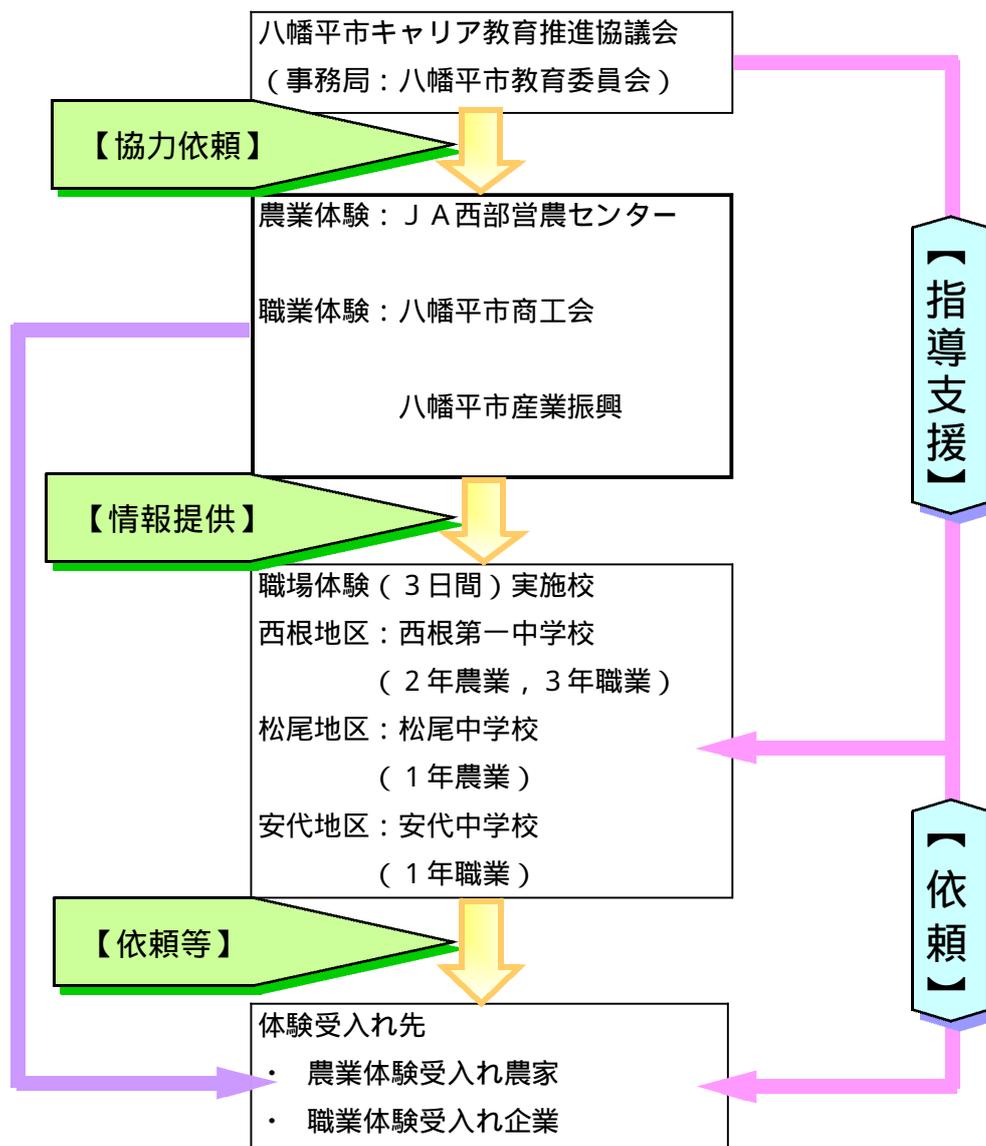
キャリア教育が八幡平市全体で推進することができるように、次の2点を重点的に開発する。

受入れシステムの構築

体験プログラムの開発

- ・「受入れシステムの構築」は、受入れ先を、学校が単独で交渉するのではなく、八幡平市として受け入れ先の確保を行う。
- ・「体験プログラムの開発」は、受け入れ先が中学生を『3日間』受け入れるためのプログラムを八幡平市として開発する。

*他の地域からの体験希望の受入れも可能なようにシステムとプログラムの構築を図る。



将来の八幡平市を担う人材育成を学校と地域が協力して行う
システムの構築を図る！

【参考資料5】

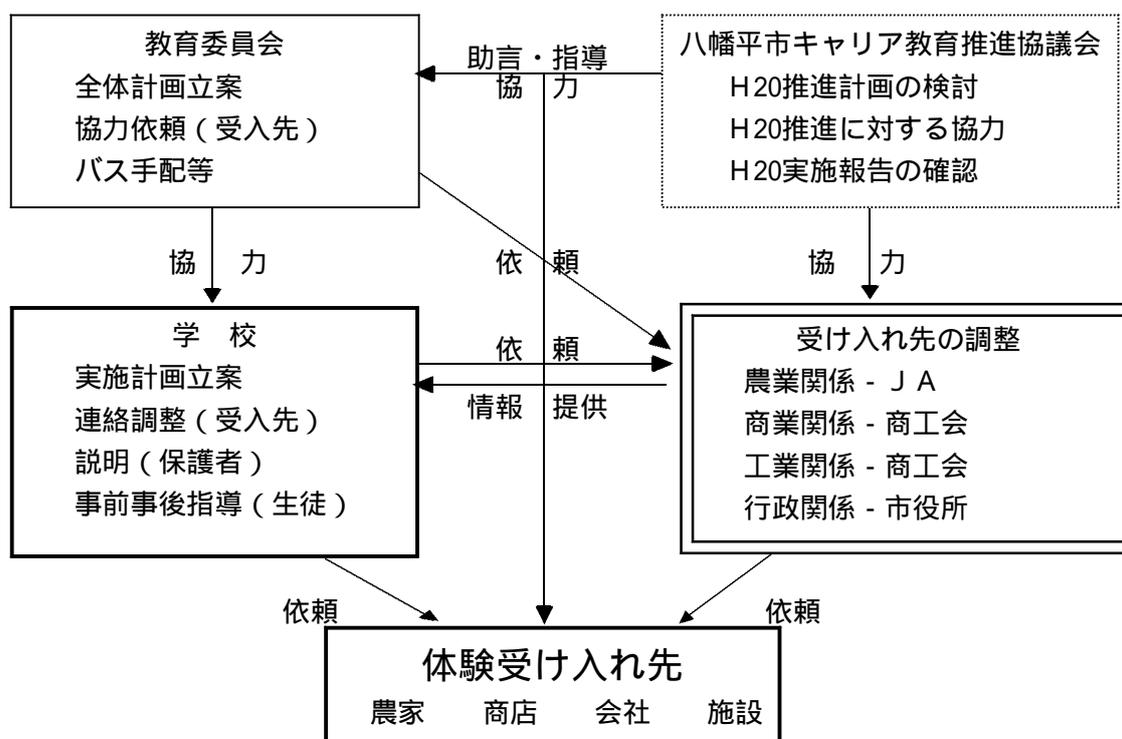
平成20年度八幡平市キャリア・スタート・ウィークの実施について

八幡平市教育委員会

1 目的

- (1) キャリア教育の一環として、様々な職場での体験活動を行うことにより、働くことや働く人に対する見方や考え方を育て、勤労に対する価値的な理解を深める。(勤労観)
- (2) 地域に根ざして仕事をする人たちの思いや願いを感じ、人が生きていく上での職業が果たす役割について考える。(職業観)
- (3) 八幡平市の産業を中心に体験活動を行うことにより、自分たちが住む地域を見つめ直す機会とする。(地域理解)
- (4) 体験を通して、自分自身の仕事に立ち向かう意思や態度をふりかえり、勤労や職業に対する自分の在り方を見つめ、将来について考える機会とする。(自己理解)

2 実施組織



3 職場体験実施予定校

- (1) 八幡平市立西根第一中学校
 - 実施学年：第2学年，3学年
 - 実施期間：7 / 1 ~ 3の3日間
 - 実施内容：2年生は，10のグループに分かれ，市内の農家で3日間の農業体験を行う。
3年生は，20のグループに分かれ，市内の職場で3日間の職業体験を行う。
- (2) 八幡平市立松尾中学校
 - 実施学年：第1学年
 - 実施期間：7月下旬の3日間
 - 実施内容：市内松尾地区の農家で畑作・酪農等の3日間の農業体験を行う。
- (3) 八幡平市立安代中学校
 - 実施学年：第1学年
 - 実施期間：9月上旬の3日間
 - 実施内容：市内安代地区内で希望する事業所を訪問して3日間の職場体験を行う。

4 その他

3日以上の職場体験を実施するにあたっては，参加する生徒全員の保険加入を義務付ける。

【参考資料6】

平成20年度 八幡平市中学生職場体験学習実施計画

八幡平市教育委員会

1 職場体験の目的

今日、家庭や社会では職業と生活の分離が進み、子どもたちは生き生きと働いている大人の姿を見ることが少なくなった。そのため、仕事は苦勞するもの、つらいもの、我慢してやらなければならないものといったマイナスのイメージをもちがちである。このような子どもたちに、職場（職業）体験等を通して、仕事のやりがいや面白さを感じさせたり、仕事をしている人たちの思いや願いに気付かせたりすることは、子どもたちの職業観や勤勞観、ひいては大人社会への認識を改めるきっかけとなると考える。また、体験を通して得られるこのような自己変容や大人との信頼関係の構築は、子どもたちが社会へ踏み出していくエネルギーの源となるものである。体験活動には、地域を知り、地域で生活する人を知るという重要な役割がある。様々な情報に流され、自分たちの住む地域を知らずに生活を送りがちな現代の子どもたちに、現実に立脚した確かな地域への認識を育む上でも、このような体験活動は欠かすことのできないものである。

- ・ 職業や仕事への具体的、現実的理解の促進
- ・ 勤勞観、職業観の形成
- ・ 自己の可能性や適性の理解
- ・ 自己有用感等の獲得
- ・ 学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上

キャリア教育推進の
柱として

2 職場体験の留意点

職場体験等の体験活動が一過性の行事になってしまわないように、計画する側の明確な目標の基に「期間」「内容」「教育課程への位置付け」等を定め、受入先との共通理解を図ることが大切である。また、事前指導において子どもたちに体験活動の意義や目的をしっかりと理解させるとともに、体験活動では、職業調べやインタビューなどの今後のまとめに生かす活動を組み合わせることも考えられる。事後指導では、まとめのための話し合いや討論会、発表会等を計画したりするなど、体験活動を中心とした単元の計画と周到な準備の基に実施することが望まれる。また、体験活動をつうじて、年齢や立場の違う「多様で幅広い他者」との人間関係の構築を図ることの意義もしっかりとふまえたい。

- ・ 職場体験の意義や目的の明確化
- ・ 受入事業所との共通理解
- ・ 事前、事後の指導の充実
- ・ 多様で幅広い他者との人間関係の構築

意義のある体験に
するために

3 職場体験の方針

八幡平市教育委員会では、中学校における職場体験等の体験活動が、子どものキャリア発達や能力・態度の育成に欠かせない重要な活動であり、子どもが自分たちの地域の産業や地域で暮らす人たちを知る重要な機会であるとして、キャリア教育推進の大きな柱として次のような方針をもって取り組むこととする。

- (1) 市内の様々な職場において体験活動を実施する。
- (2) 職場体験を通して地域の産業や地域に生きる人々に対する理解を深める。
- (3) 体験期間は3日間以上とする。
- (4) 職場体験の目的を達成するために、事前と事後の指導の充実を図る。
- (5) 移動や作業における安全指導やマナーを徹底する。

4 職場体験実施予定（実施内容，実施期間，推進体制等）

(1) 八幡平市立西根第一中学校

実施学年：第2学年，3学年

実施期間：7 / 1 ~ 3 の3日間

実施内容：2年生は，10のグループに分かれ，市内の農家で3日間の農業体験を行う。
3年生は，20のグループに分かれ，市内の職場で3日間の職業体験を行う。

(2) 八幡平市立松尾中学校

実施学年：第1学年

実施期間：7月下旬の3日間

実施内容：市内松尾地区の農家で畑作・酪農等の3日間の農業体験を行う。

(3) 八幡平市立安代中学校

実施学年：第1学年

実施期間：9月上旬の3日間

実施内容：市内安代地区内で希望する事業所を訪問して3日間の職場体験を行う。

5 その他

3日以上職場体験を実施するにあたっては，参加する生徒全員の保険加入を義務付ける。

【参考資料 7】

八幡平市の中学校における職場体験の実施状況

学校名	1年生	2年生	3年生	備考
西根中学校 ・1年生(124名) ・2年生(128名) ・3年生(128名)	職場訪問1日 盛岡市 9月	職場体験1日 市内 9月下旬 (幼稚園,保育所, 薬局,菓子店,美 容院,病院,衣料 品店,温泉,自動 車会社,スーパー, 商店,飲食店,老 人ホームなど)	福祉体験1日 市内 9月下旬 (市内の福祉施設)	
西根第一中学校 ・1年生(53名) ・2年生(52名) ・3年生(43名)	職場訪問1日 市内 7月 (安比グランドホ テル)	農業体験3日 市内西根地区 7月 (ハウレン草,リ ンドウ,きゅうり, トマトなど)	職場体験3日 市内 7月 (企業,商店,保 育所,病院,図書 館など)	【CSW指定校】 2年生と3年生で 3日間の職場体験 を実施
松尾中学校 ・1年生(64名) ・2年生(60名) ・3年生(47名)	農業体験3日 市内松尾地区 7月下旬 (畑,酪農,農場 など)	職場体験1日 市内・盛岡市 8月下旬 (保育所,ホテル, 薬局,スーパー, 動物病院,教材 社,飲食店,病院, 専門学校,菓子店, 本屋など)		【CSW指定校】 1年生で3日間の 職場体験を実施
安代中学校 ・1年生(42名) ・2年生(37名) ・3年生(40名)	職場体験3日 市内安代地区 9月 (ホテル,旅館, 民宿,保育所,小 学校,食堂,せん べい店,豆腐店, 温泉,美容院,菓 子店,牧場,博物 館など)	職場体験1日 盛岡市 9月 (動物園,動物美 容院,病院,スー パー,飲食店,菓 子店,自動車整備, 老人ホーム,幼稚 園,自衛隊など)		【CSW指定校】 1年生で3日間職 場体験を実施
田山中学校 ・1年生(6名) ・2年生(11名) ・3年生(16名)	職場体験1日 市内 9~10月 (製麺所,スーパ ー,自動車会社, 銀行,養蜂場,診 療所,ガソリンス タンドなど)	職場体験1日 盛岡市 9~10月 (本屋,ラジオ局, 自動車会社,釣具 店,スーパー,ベ ットショップ,保 育室など)	職場体験1日 市内・盛岡市 9~10月 (商店,施設,い けばな教室,テレ ビ局,衣料品店, 運送会社など)	